

# 一歩

社会福祉法人 アルカディア

令和2年7月発刊 第27号

発刊元：ニュースレター委員会

## 【座談会】

### コロナ禍に福祉法人はどう取り組んだか

#### ～緊急事態宣言後の中間的検証～



木々の緑は次第にその色を鮮やかにし、公園では子供たちはしゃぐ声が聞こえ始め、街は少しづつ活気を取り戻しつつある。

一方で「新たな生活様式」、「新たな日常」が語られている。また、第2波がやってくることに対して私たちは、未だ「不安」をぬぐい切れない日々を送っている。

この数ヶ月、私たちは戦々恐々とした日々を体験してきた。それを振り返り、何を教訓化したらいいのか？今、中間的検証作業が求められている。

このような状況にあって、この度、（社福）明清会と（社福）アルカディアは座談会をもち、双方が語り合った。今回のニュースレターは、座談会形式で記載していく。

コロナ対策の検証作業に少しでも役立てることができればと思っている。

座談会参加者	(社福) 明清会 (社福) アルカディア	小暮 明彦 中田 駿	高山 千恵美 片山 和也	四方田 麻菜美 小林 勇也
--------	-------------------------	---------------	-----------------	------------------

#### ◆コロナ感染症防止の大変さについて



中田●まだ、一時期より落ち着いたけど、今回のコロナ問題について明清会も大変苦労されたと思うま  
すが…。いつ頃から危機感をもつようになりました？

高山●2月後半から危機感はあったが、当初はまだ、法人内でも危機感や取り組みに差があったよう  
に思いました。2月後半から職員や利用者の検温等健康管理を開始しました。

中田●法人として対応策を考えはじめたのは、3月に入ってから。3月20日に「新型コロナウイルス感染  
症防止対策委員会発足なので。アルカディアの方が遅れ気味だったですね。その前から情報収集  
はしていましたけど…。

高山●3月3日からは、具体的な対策を細かく計画、実施している。地域活動支援センター（以下、「地  
活」という。）ではグループ活動の工夫や一部休止しました。

中田●アルカディアでは3月初旬からチェックを始めたけど、明清会と同様に温度差はありました。突  
然、コロナがやってきたので、法人内での温度差が生じるのもある意味仕方ないことなのでは…  
「ダイヤモンドプリンセス号」でコロナが発生したころは、まだ対岸の火事と感じていたから…

高山●就労系は、通所の自粛などに対して大変苦労したと思う。事業所としての死活問題にもなる。4  
月上旬の伊勢崎でのクラスター発生は、法人としてさらなる危機感となった。就労系では、在宅  
支援をするにあたり、市町村ごとの対応がまちまちであることも大きな苦労の一つとなった。  
クラスターが発生した事業所に入る外部サービス事業所を利用している方もいた。相談支援専門  
員として、感染の拡大リスクについて保健所や事業所に相談。第二、第三の感染リスクの影響を  
確認しながら関係機関と情報共有し、必要なサービス、医療が継続的に行われるよう工夫した。

四方田●グループホームを初め、利用者の方々の安全、暮らしを守ることで必死。利用者の方々が体調不  
良でも、必要な医療につながれないことを痛感。職員も大変疲弊しながらも、ここまで実行してき  
ました。

## ◆行政との連携～その過程で浮き彫りにされたこと



中田●コロナ対策についていえば市町村間で違いがでてきたことも検証課題だと思われます。

高山●行政職員もマスクを着用していない職員がいたりして…。

中田●県・市町村行政は全体的に「危機意識」が希薄だったと感じます。

片山●業務縮小、職員制限を法人として配慮しようと思いましたが、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための群馬県の緊急事態措置」で「社会生活を維持する上で必要な施設等の管理者に対し、適切な感染防止対策を講じた上で事業の継続を要請する。」とあり、社会福祉施設等は、「対象外」で行政にも確認はしましたが、対策の上事業の継続となりました。しかし、行政の判断は、個人的レベルの見解なのか、全体として検討した上の見解なのか？わからなくて困る場面もしばしばあったと感じました。地活の場合は、事業所判断で休止となると、委託金にも影響が出る可能性も…？

高山●地活で通所者を減らす提案を行政にしたところ、とても理解を示してくれた。「電話相談や訪問をもし実績として確認した場合の記録があれば」と。一方、相談支援にあたっては苦労。行政の判断は、窓口対応の判断なのか？全体の判断なのか？よくわからない。

全体的印象として「頼れない」「頼ってはいけない」（危機管理については今起こっていることに自分たちで対応しなければ）と感じましたね。

片山●出勤制限もキッチリやりたかった。問い合わせたら「自主的な判断に任せる」と。

中田●通所事業が3密になるのが危惧されたので、「制限したい」と申し出たらこれに対しても「自主的判断に任せる」と。ただし、最初は「電話での様子確認でOK」ということだったが、その後、「通常と同様のサービスを提供した際に請求OK」と変わった。

片山●行政に問い合わせる法人が少なかったからではないのか？行政としても判断には四苦八苦し、明確な回答は出せない状況だったのかもと思います。

中田●結果的には、市町村格差が出てしまっている。本来ならば国→県→市町村の流れの過程で、県や市町村が独自の見解・方針を出す過程で理由、根拠が希薄になってしまったのではないか？

高山●全体的に行行政も対応が追いついていない？もしくは、現場で起こっていることへの関心の差？があったように思います。

小暮●市町村のばらつきも福祉の現場からすれば困った事態だヨ。こちらの問い合わせに「一週間後にHPで」というけど、その間に感染者が出たらどうするのか！緊急時にリアルタイムな対策を取れる体制の整備は課題ではないか？

片山●入居、通所での温度差はあった。「入居施設に感染者がでてしまったら…」と大変な思いをした。

小林●コロナ対策はしてきたが、GHは利用者の方々に感謝している。マスクの着用も難しかったが、協力してくれました。利用者の方々への行動制限もあり、ストレスはたまっている。緊急事態宣言が解除されても、法人の対策、基準のなかでお願いすることで落胆してしまう部分も。

利用者の方々の日中活動先として、通所している事業所で対策はしているから安心感はあった。

医療機関とも情報共有したが、管理体制は迷う部分もあった。

アルカディアで言えば、コロナ対策委員会と現場の意見との一致が必要と改めて感じた。

1週間とかの単位ではなく、2カ月単位の話だと、自肃は国民全体でストレスとなってしまう。

中田●自分ではストレスは感じないタイプと思っていたが、休日でも携帯電話が鳴った際はコロナ関係の連絡かと思い“ビクッ”となった。

今後のことを考えるに想定しないことが起きたとき、全く今と同じようなことが起きてしまう可能性が考えられる。

福祉現場では一人でも感染者がでたら…という緊迫した状況で仕事をやっている。

コロナ対策として、福祉法人間で情報共有や対策を検討したりすることの方が重要でスピード感ある対応ができるよう思う。行政には法人で考えたことを後追いで報告することくらいの態勢をとった方がいいのでは？補助等、お金の部分は厳しいけど、本来は福祉法人で対応をしていることに対して行政は協力をする状況にならないかな…。

小暮●緊急事態宣言の中で、障がい者だけ普通に通所している。国は何を考えているのか？何を考えているかがわからない。通所することのメリットもあるが、在宅勤務OKでないと。在宅勤務の方が工賃も多い方も。在宅勤務だと、通所施設内である人間関係のトラブル減少にもつながると思うのだけど…。



## ◆結局、福祉法人が奔走し、努力するしかない？

中田●マスクが品不足になって手に入らない時があった。残念なことだけど、「障がい者福祉」は、一番低い位置にあるのが再確認されたと思います。勿論、感染者が増加していく中で医療現場が最優先されるのはわかるけど…。

高山●みどり市は、福祉従事者にも独自の慰労金を出しました。前橋市は医療従事者に慰労金。額というより福祉に関心を持ってくれたことが大きいです。

小林●コロナ対策物品の備蓄も確保に翻弄されました。なんとか調達できるようにしたが、法人で調達しないとこの危機的状況は乗り切れなかつたと思います。

四方田●明清会として、ビニール製の防護服を手作りしました。今後、どの程度備蓄をする必要があるのか？何人分？今のうちに備蓄する必要性がありますね。

小林●グループホームでマスク等を用意するとき、利用者の方々にも用意してもらう必要性もあると思いました。個人の意識の持ち方としても役立つと実感しました。

四方田●大切なことだと思います。当初から、自分を守るために備蓄は必要だと考えていました。利用者の方々にもマスクの作り方を伝える方法もとりました。代用品をいざってときに。利用者でかなりの数をつくっていた方もいました。利用者に用意してもらう数も。今でも手作りをする方もいます。自分たちのこととして捉えてもらうことで危機意識を持つきっかけになります。

## ◆今後のこと～第2波に備えて～



中田●経済面での再建も必要だが、バランスの問題をしっかり舵取りしないといけないと思います。経済面での豊かさだけを追い求めてきたけど、ほどほどの生活を「当たり前」と思うようになれば、なんとかやっていけるのではないかと思う。

大阪府知事は「コロナ感染で亡くなる人がいる一方で、経済面の危機で倒産や失業で自殺に繋がってしまうことにも目を向けなければならない」と発言しました。

両方とも命の問題であれば、天秤にかけることはできないはず。でも一段落落しそうになると、即、経済的問題が浮上してくる。やはり生活水準は下げられないのですかね？

安倍首相にはコロナ感染が拡大していた時から、経済のことが頭の中の大きな部分を占めていたように思います。

このようにして第2波は来る？

小暮●来るね。必ず来る。いつ頃かわからないけど、そう遠くない時期だと思う。

法人、事業所、現場単位で実施したことが、第2波の方が対策は取りやすいのではないか。物資、情報の共有（法人内、法人外）関係作りは必要。

四方田●利用者の方々は本当に協力してくれたが…職員の質、疲弊は感じましたね。

入院者は増えました。普段気付けるところが気づけなかった。現場レベルで一緒に考える必要性はあると感じています。感染症だけに囚われてしまっても、本質的な部分が足りないと支援にはならないと思っています。

中田●今の意見は大変大事だと思います。この間、「自粛」という言葉がメディアで朝から深夜まで何度も使われてきたことか、と思っています。自分でもついつい「ジシュク、ジシュク」と独り言のように叫んでいます。

日本人の国民性というか「ジシュク」は浸透し守ったことで 現状は下火にはなった。けれど、「ジシュク」が道徳観、倫理観にまでいってしまうと少なからず危機感を持ちます。倫理、道徳を守らない人は、バッシングの対象にされます。つまり、「ジシュク」を守る人と守らない人の間に分断現象が起きてしまうような気がしてならないのです。分断は一方が他方を排除してしまうことになるのです。

更に自粛していれば、何も考えない、何も考えなくてもいいという思考傾向を生み出します。

だから、四方田さんの「現場で一緒に考えていく」「本質的な部分を」という発言は非常に重要なと思います。コロナ問題で一番大切なのは、皆で利用者の方々のことを考えていくことだと思います。これがまず、教訓化すべきことだと思います。

小林●コロナで頭がいっぱいになっている過程での入院者は少なかった。利用者同士で助け合っている場面もみられた。熱、手洗いの声掛け、ストレスが溜まる中でも、心配し合ってみんなでカバーできた部分もあったように思います。

高山●普段から外へ欲求のある方は、本当にしんどくなっていた。アンテナを張っていた方、今の状況はしょうがないと受け入れようと思っていた方も少しずつ病状悪化した方もいました。今の緩和時が緊張の糸もほどけて、気持ちや行動に変化が生じる。そこにはそれぞれの価値観の違いも生じますね。

第2波に備える前に、緩和に対する感覚に対する支援も必要です。「行動していいのか？まだなのかな？」みんなで考えていくようにしたい。

ストレスの対策も大切です。大震災の時も遅れて症状が出てくることがありました。第2波での対策も含めてケア、ストレスへの緩和に対する事例検討も必要だと思います。

小暮●経済の再建は大事だと思います。実は社会経済と福祉は密接に絡み合っている。

豊かで便利な生活に慣れてしまっているため、その方がいいと感じる人たちが圧倒的に多い。でも、そうしてバブル崩壊以降、経済はグローバル化が進んできました。しかし、今はダメ。コロナで各国が鎖国状態になっています。経済は縮小していくかざるをえない状況に立たされているのだと思います。生活は今より多少不便になるかもしれないけど、農業とかを見直し、自給自足が発展していくような社会が求められている気がします。

あえて言うなら、雇用してくれるのなら、給料など現状維持でもいい、失業するよりマシ、とい方向に向かっていくような気がする。

中田●新しい生活様式、新たな日常がしきりに呼ばれているけど、どうもピンと来ない。連休中、友人から「私は母親を介護しているのでコロナ以前と同じ生活、なんにも新しい日常ではない」と便りが届き、「ああ、そういう人たちもいるのだな」と気づかされました。「日常（生活）」というものは、人それぞれです。

コロナ問題は、これから社会の在り方を考えていく大きな転機となることは間違いないと思います。小暮さんが言ったグローバル経済のこと、福祉のこと、人間の生活のこと、様々なことを考えしていくことが大切なだろうと思います。

小暮●福祉法人も益々厳しい状況になっていくんだろうね。給料だっていつまでも上げ続けることはできなくなる。うまくいかない法人も出てくる。給料、下がっていくかもしれない。

高山●下がる・・・？

小暮●財源が確保できなければ下がるよ。

中田●結局、大企業は安泰だけど、中小・零細企業は、福祉法人を含めて厳しくなっていくということですか？私は単純な発想で「正義は勝つ」と思っています。

小暮●中田さんは、いつもこうなんだよな。そう簡単じゃないと思うけど…。

中田●そう信じることも必要って意味で。正義、正しい行いというのは、いつか報われると思う。なんだかコロナの話から離れていくっててしまったけど…

## 【座談会後記】

座談会はあっという間に2時間以上が経過した。いろんな意見が聞かれて意義ある座談会になったと思う。最後に、参加者一人一人から感想、意見が述べられた。この部分は紙面の都合で割愛します。

今回は座談会という形で掲載しましたが、今後、第2波がくることを想定しつつ、法人間の情報の共有、相互意見交換ができるれば、一法人で「苦労」するよりずっと有効な方策が実施できると感じました。お疲れ様でした。



2020.6.10

アルカディア ニュースレター委員会 本部  
群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL:0276(20)2509 FAX:0276(20)2510

ニュースレター及び法人情報につきましては、<http://arcadia-gr.com/> でもご覧いただけます。